

ふるさと

町出身者の

とつて「ふるさと」とは「と題して一部紹介したが、ここに寄せられた手記は故郷を思う、あたたか心がいつばいである。私たちが住む者も、こうした人たちの「ふるさと」を無にすることなく、海に、山に街に、すばらしい町づくりにみんな力をあわせてやらずには、町出身者の期待に応えるためにも……。

町づくり広い視野で

九町出身 渡辺雄登三(六十)



郷里には、家を継ぐもの一人以上は残って先祖の墓まわり、他、遠く道路が狭く危険でした。朝、お寺(天徳寺)の前には集合して、上級生が下級生の手を引、二列に並んで山際通行の仲良

なつかしい仲良登校

奥出身 橘 巧(八十)



さながら…… これを利用して安心して登校できるようになったら、また、この道路の観光路(遊歩道、サイクリングロード)となればどんなにすばらしいことだろう。

情緒豊かな町に

仁田之 道上高徳(四十)

石油危機によるこの国民生活は、何時も鮮明に映ります。活はすべて高物価時代に突入。決して豊かではないが、最良の地帯ではありませんが、農産物や農機具による近代的農家に変身した情緒豊かな町政の充実感があふれているように感じます。

福祉年金

障害福祉年金は、国民年金に加入していた間に病気やケガをして障害者になった人が、加入期間が短かいために障害年金が受けられないとき、または、二十歳になる前に障害者になったために、すでに障害者になっていたときに支給されます。この障害福祉年金は、いままでは級の障害に限られていましたが、四月から比較的軽い二級の障害者にも支給されることになりました。

教育の町づくりを

二見出身 川口 万寿夫(七歳)



一、やはり教育の面で、こんな大正十二年、見小学校入学、昭和六年二見高小、昭和十一年より町の発展を望みたい。学歴時代で三年間伊方小学校の教員、昭和十一年より六年間八幡浜高女、教員は十分に伸ばしてやる環境づくりが大切ではないかと

請求の手続きや、くわしいことについては、役所国民年金係におたずねください。 一級障害者の目安 目の障害 両眼の和が〇、〇五以上〇、〇八以下の人。

安全な原電建設を

大浜出身 戎 藤 要 吾(四十)



かと思ひます。

最近の一番大きな話題は、四国電力が九町越に建設中の伊方原子力発電所のことだと思ひます。伊方原子力発電所は、全国的にも有名になりました。私も、伊方に用事ができ帰ります。

安心感ある町づくりを

小中出身 宮 協 節 子(七歳)

「お母さんは、ふるさとがあつたつきたと言われビビッ。海水でしあわせねー」と子どもたちが浴も出来ないこの海では、緑田生まれ、水田の稲風になを通じて、また、帰郷するたびにびい学校に通ったことを懐しく生活環境、教育施設の目覚ましい思い出です。海は青く澄み、朝 発展をうれしく思っています。また、四国地区代表の前田さん見かけました。

若者の住みつく町に……

大浜出身 木戸 章 夫(五十)

「ワシの住み家は、〇〇〇と決 慶弔時以外はあまり故郷に帰る機会もないのですが、帰ることに時中よく歌われたものです。あれから三十余年、戦後政府も食糧増産の一環として開拓政策を打ち出し、その先頭をきいて

美しい自然の美

小中出身 杉 田 操(三十)

ふるさと伊方町を後にして十年、始めて伊方へ来た時、三児の母親で、それから、幾年かの帰郷したつづき、異様な感思で思わす異をつつあるように思ひました。小さな海は、豚の糞尿でも自然の美しい町として、私は故郷を思い出したいのです。

